

令和2年度 自己評価報告書

令和3年3月
岐阜県立下呂看護専門学校

1 本校の基本理念

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う、専門職業人を育成します。

2 令和2年度組織(所属)目標及び実績

1)カリキュラム改正に向けた教育内容の再構築

- ①カリキュラム構築のための研修会参加、伝達講習会実施（4月～9月）
- ②カリキュラム委員会 20回／年開催
- ③組織目標の中間評価後、検討計画等の見直し（10月）
- ④科目評価の実施、課題の明確化と共有（11月～1月）
- ⑤新カリキュラムの教育内容の抽出、科目設定の検討（2～3月）
- ⑥進捗状況は遅れているが、カリキュラム編成のプロセスに沿って丁寧に取り組んでいる。

2)学校評価体制の充実

- ①学校評価委員会 21回開催／年
- ②学校関係者評価委員会開催
 - ・6月2日（火）第1回学校関係者評価委員会「令和元年度自己評価」報告
 - ・11月25日（水）第2回学校関係者評価委員会「令和2年度中間自己評価」報告
- ③講義・実習の授業評価の実施と情報公開（100%）
- ④取り組み2年目となり、学校評価の一連を行うことができた。課題として挙げられた各委員会・係活動の取り組みの遅延、各調査結果の有効活用について準備を進めている。

3)業務の効率化によるワークライフバランスの推進

- ①業務改善事案（14件）の検討と改善に向けた取り組み
- ②職員会議、教務会議、毎朝のミーティング時に時間外削減、年休取得推進の呼びかけ。
- ③個人月間スケジュール表を用いた時間外勤務時間の目標設定と評価
 - ・月間スケジュール表の活用 100%
 - ・時間外削減率（目標 昨年度比5%減） 実績6%減
- ④休暇取得計画表を用いた計画的休暇取得の推奨
 - ・年次休暇 一人平均8日6時間（目標達成率 73.1%）
 - ・夏季休暇 全員4日取得（目標達成率 100%）

3 評価項目の達成および取組状況

1) 学校経営

資料 1 ~ 1 1

| 評価項目 | 評価点 |
|--|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長が部署をまとめ、問題解決に当たっているか。 | 4. 7 |

○評価点：よい 5 ややよい 4 普通 3 やや不十分 2 不十分

- ・新型コロナウイルス感染症の流行状況、岐阜県の動向等にあわせ、年度当初の学校運営計画の修正を行い学校運営に取り組んだ。
- ・組織目標は職員会議、教務会議等で職員に周知した。
- ・学校評価、組織目標、委員会・係活動目標等の評価は9月、3月に実施した。中間評価結果、年度末評価結果は職員会議等で共有し、対策について検討した。
- ・学校評価中間自己評価結果は11月にホームページに掲載した。
- ・学校評価自己評価結果および学校関係者評価委委員による評価結果は6月の学校関係者評価委員会終了後、6月中にホームページに掲載する。
- ・上半期は活動の取り組みが遅れたが、中間評価後に活動計画の修正を行い、下半期に取り組んだ。
- ・学校評価2年目となり学校評価の一連について取り組みが行えた。
- ・学校評価は学校評価委員会が中心となり活動しているが、職員への結果・課題のフィードバックが不十分である。

【課題】

- ・組織目標、委員会・係活動目標等の達成に向け、計画に基づいた活動を行う。
- ・学校評価結果の職員へのフィードバックが不十分である。

【対策】

- ・学校運営計画表を活用し、各委員会・係活動の取り組み状況・取組結果の共有を行う。
- ・学校評価結果を職員と共有し、学校運営に活かす。

2) 学科運営

資料 1 2 ~ 1 4

| 評価項目 | 評価点 |
|--|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・卒業時に持つべき資質を教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容にな | 3. 6 |

| | |
|--|-------------|
| <p>っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画（シラバス）が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。 ・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員（実習指導教員）の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント、アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。 | <p>3. 6</p> |
|--|-------------|

- ・新型コロナウイルス感染症により4～5月は臨時休校となった。6月から学校を再開し、季節休業を短縮し、授業・臨地実習方法の一部変更などにより、カリキュラムを運用した。3学年とも当該学年で学修すべき教育が行えた。
- ・カリキュラム委員会では、令和元年度卒業生に対し「卒業生アンケート」を実施した（回収率25%）。調査時期が遅れ、回収率が低かったが、ディプロマポリシー（卒業時に必要とする能力）に挙げている「命の尊さ」「人間の尊厳」「問題解決能力」「多職種連携」などに対し、肯定的な意見が多かった。
- ・卒業生の就職病院への調査が行えなかった。卒業生の自己評価と就職病院の評価を合わせ、卒業生の能力評価を行い、当校の教育の評価を行えると良かった。
- ・新カリキュラムについて検討中である。現行カリキュラム評価をもとに新カリキュラム構築を進める。
- ・学生に対し、シラバスを用いて授業のねらい、学習内容、評価方法の説明が行えた。また、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野については科目評価を行い、教育内容・教育方法の検討後、シラバスに反映できた。
- ・翌月の時間割作成は「毎月20日までに作成」を目標にしたが、講師との調整、学年間の調整などの遅れにより月末になることが多かった。
- ・新型コロナウイルス感染症に係るガイドラインを作成し、学生・教員・学部講師・実習施設に示し安全な講義・実習に努めた。
- ・コロナ禍の中、ほとんどの実習施設で臨地実習が行えた。臨地実習施設の指導者と教員との関係が良好であり、実習方法の工夫、有効な実習指導が行えた。
- ・学生の単位取得に向け、学年担当を中心に学習状況の確認、個人面接、成績検討会等により支援した。
- ・実習評価は評価基準を明示し、基準に基づき評価した。教員と実習指導者との調整はもちろ

ん、実習担当教員間での協議を行い評価している。

- ・各実習科目の前には臨地実習要綱を用い、看護学生としての倫理行動について意識付けを行っている。また、実習中のヒヤリハット報告書により、個人情報の取り扱い、安全な看護について検討を行った。
- ・実習時のインシデント、アクシデントについて実習ミーティング等で共有できているが、分析による再発防止への取り組みが不十分である。
- ・講義（外部講師・教員）、臨地実習について、「授業評価の流れ」に基づき授業評価を実施した。評価結果は外部講師・教員、臨地実習施設に開示することができた。
- ・授業評価の開示遅延、評価結果の共有と対策検討が不十分である。

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染症に対応した講義・実習の計画・実施。
- ・時間割の早期計画と学生への提示。
- ・新カリキュラムの構築（講義・実習）。
- ・卒業生アンケートの回収率増加と就職病院への調査実施。
- ・授業評価後のタイムリーな開示、課題共有と対策実施。

【対策】

- ・社会情勢をみながら、安全・確実に学生が学習できるよう学科運営方法を検討する。
- ・カリキュラム検討委員会、実習委員会、学校評価委員会を中心に、計画に基づいた取り組みを行う。
- ・卒業時の目標到達状況、授業評価結果の分析を行い、現行カリキュラム、新カリキュラムの教育内容・方法に反映する。
- ・毎月の時間割の早期計画に努め、学生への説明を確実にを行う。

3)入学・卒業対策

資料 15～17

| 評価項目 | 評価点 |
|--|-----|
| <ul style="list-style-type: none">・より多くの応募者を確保することに努めているか。・国試の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。・卒業生への支援を行っているか。・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。 | 3.6 |

- ・例年6月に職員が高等学校に訪問し学生募集を行っているが、学校訪問を中止し学校案内等の送付のみとした。
- ・学生確保係を中心に学生確保に努めている。夏季休業中のオープンキャンパスは中止したが、個別の学校見学会等を行った。
- ・受験生に対し、随時入学試験に関するお知らせをホームページに掲載した。
- ・受験生および入学生へのアンケート結果では、情報収集手段や入学の決め手は学校ホームページの活用、オープンキャンパス等が主だった。
- ・卒業生に対し個別面談、保護者面談等、学生の状況に合わせて支援を行った。
- ・卒業生支援は卒業生支援委員会が中心に行っている。今年度は「卒業生交流会」「卒業生と語

る会」が開催できなかった。学生からの就職に関する相談は各学年の学年担当中心に対応した。県内就職率は90%だった。

- ・ 国家試験対策委員が中心となり、国家試験対策に取り組んだ。学生個々に担当指導教員を配置し、学習面、精神面の支援を行った。
- ・ 昨年度不合格者1名に対し、学習支援を行ったが不合格だった。
- ・ 全国の看護師国家試験合格率は90.4%、当校は92%だった。
- ・ 退学者は4名であり、全体の5%だった。

【課題】

- ・ ホームページの充実。
- ・ コロナ禍における学生確保対策、就業支援方法の検討と実施。
- ・ 国家試験の全員合格。

【対策】

- ・ ホームページ更新、学校見学会等をとおし、優秀な学生を確保する。
- ・ 「卒業生と語る会」「卒業生交流会」を実施し、就業支援、就職支援を行う。
- ・ 担任・副担任、委員会・係活動を機能させる。

4) 学生生活への支援

資料18～20

| 評価項目 | 評価点 |
|---|-----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・ 経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・ 学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・ サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。 | 3.1 |

- ・ 学生生活実態調査を実施したが、実施時期が年度末になり、結果分析・対策の検討が年度中にできなかった。
- ・ コロナ禍によるインターンシップ開催の減少や制限があり、学生各自でのHPによる情報収集を推奨し、担任・副担任を中心に相談に応じ支援した。
- ・ 学生の経済的支援（授業料減免、学生支援給付金等）について、総務課が学生への情報提供や手続きの説明等を行った。
- ・ 日本学生支援機構による様々な奨学金を受ける学生が増加した。
- ・ 2か月の臨時休校により授業・実習が過密になり、日常生活上の行動制限も加わり、多くの学生が精神的ストレスを抱えていた。適宜最低限の面談を行い、現状把握・サポートに努めた。
- ・ 学生自治会活動は活動内容・方法に迷いながら、可能な範囲で活動した。通常より活動規模は縮小した。
- ・ 学生の交流促進やストレス発散に繋がる学校行事（球技大会、校外研修等）は開催できず、学生同士の相互支援は困難な状況だった。
- ・ サークル活動については学生の時間的余裕もないためか、希望する学生は少なかった。

【課題】

- ・ 経済的支援を要する学生の増加。
- ・ 学生間の交流の機会がなく、相互支援が図りにくい。

【対策】

- ・ 経済的支援を要する学生の把握と支援。
- ・ 学生自治会活動による学生間の交流の充実。

5)教職員の育成

資料2 1～2 3

| 評価項目 | 評価点 |
|--|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・ 学会又は研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。 ・ 教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。 ・ 教員の授業を他の教員が参観、講評できる体制を整えているか。 ・ 教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。 | 2. 6 |

- ・ 職場の課題について職員会議での職場内研修を行っている。
- ・ 年度当初に教員の研修計画を立案していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により研修内容や参加方法を変更した。参加した研修は限られたが、教員全員が目的に応じた研修に参加した。
- ・ 担当領域が変更になった精神看護学担当教員や臨床から離れた期間の長い教員に対しての実務研修については実施できなかった。
- ・ 研修に参加した成果は、職員会議・教務会等および文書回覧により共有した。
- ・ 中間評価時に教員間の授業参観が課題となったため、下半期に授業参観を実施した。実施時期が年度末になり、対象とする科目が限られた。

【課題】

- ・ 担当領域が変更となった教員の臨地研修が行えていない。
- ・ 授業参観が計画的に実施できていない。

【対策】

- ・ 精神看護学を担当する教員の臨地研修を実施する。
- ・ 年間を通し、計画的に授業参観を行う。

6)管理運営・財政

資料2 4～2 5

| 評価項目 | 評価点 |
|---|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算計画、年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。 ・ 学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。 ・ 災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全 | 4. 3 |

| | |
|--|--|
| 意識の向上に努めているか。 ・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。 | |
|--|--|

- ・予算策定、予算執行は計画的に行っている。
- ・感染予防対策、寮居室の個室化、代替施設借り上げ等で臨時経費の予算策定・執行があった。
- ・年間を通し、職場研修が行えた。
- ・個人情報の保護に関する定期的なセルフチェック、人権の保護に関する学習等により、職員の意識を高める取り組みができています。
- ・12月に個人情報の紛失事故（学生の成績査定表紛失）があり、組織として再発予防に取り組んでいる。
- ・7月豪雨時の対応について職員で振り返りを行い、課題について見直しを行った。
- ・全学年の消防訓練、講習会等が実施できなかったが、1年生の防災訓練を実施した。
- ・防災・防犯マニュアルはあるが、実際にシミュレーションを行っていないため、教員や学生間でのイメージができていない。
- ・学生の意見箱の意見、保護者からの意見に対し、面接、文書等で対応した。

【課題】

- ・学生の個人情報紛失事故が発生した。
- ・学生への防災、防犯訓練が不十分である。

【対策】

- ・個人情報の取り扱いに関するマニュアル見直しとマニュアルの遵守。
- ・防災・防犯に関する訓練・講習会を実施する。

7)施設設備

資料26～27

| 評価項目 | 評価点 |
|--|-----|
| <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。 | 3.0 |

- ・施設の老朽化については、計画的に予算化と修繕を行っている。
- ・和式トイレの洋式化は令和3年度設計、4年度着工予定である。
- ・図書および教材は年度計画に基づき、計画的に整備している。
- ・新型コロナウイルス感染症流行のため、遠隔授業の必要性が生じ、令和3年3月にWi-Fi環境、ICT機器が整備された。現在、県立3校で規程・マニュアルを作成している。

- ・学生のための食堂・休憩室、個別面談室などの整備は構造・スペース上の理由等から確保できていない。既存の部屋を使用目的に応じて使用している。

【課題】

- ・校舎、設備の老朽化が著しい。
- ・ICT機器を用いた学習環境の整備が必要である。

【対策】

- ・計画的に施設・設備の整備を行う。
- ・ICT機器を有効に活用できるよう体制を整える。

8) 広報・社会貢献・地域活動

資料 2 8

| 評価項目 | 評価点 |
|--|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしている。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。 | 2. 8 |

- ・年間を通し、ホームページの更新を行った。
- ・必要事項が閲覧しやすいよう、ホームページのデザインを更新した。
- ・年度当初にボランティア活動、小中学校への出前授業等の取り組みを地域・実習施設にアピールした。
- ・感染予防対策を講じたうえで、ボランティアの要請に応じ活動した。
- ・出前授業の申し込みはなかった。

【課題】

- ・地域ボランティア活動の制限がある。

【対策】

- ・ボランティア活動、出前授業等の実施方法を工夫し、取り組みを継続する。

9) 独自項目(寄宿舍)

資料 2 9 ~ 3 0

| 評価項目 | 評価点 |
|---|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舍の施設・設備は安全・安心が確保され、学業に専念できる生活環境であるか。 | 3. 9 |

- ・感染対策として代替施設を借り上げ、寄宿舍の個室化を行った。
- ・寄宿舍における感染症のまん延を防ぐため、生活上のルール設定、学生への支援を行った。
- ・7月の豪雨災害時に寮生が避難所に避難し、寮生全員の安全は確保できた。避難方法や避難時の学生の行動等の課題が挙がった。

- ・ 7月に空調不良の部屋6室の個別空調工事が完了し、全室の空調設備を整備した。
- ・ 2月に中央の暖房設備が老朽化のため故障した。県の施設等から暖房器具を借用し対応した。
- ・ 舎監、副舎監、総務課を中心に学生からの意見に対して適宜対応した。
- ・ 3月に寮の消防訓練を実施した。1回のみ訓練となったが、学生が主体的に訓練の振り返りを行った。

【課題】

- ・ 寄宿舍における感染予防対策の徹底。
- ・ 冷暖房設備の老朽化によるなど、施設の老朽化により生活環境が十分整えられていない。
- ・ 防災意識の向上と安全な避難行動。

【対策】

- ・ 新型コロナウイルス感染予防対策を継続する。
- ・ 令和3年度の空調設備改修工事施工と学生へ十分な説明。
- ・ 寄宿舍の防災訓練（2回／年）。